

科目ナンバリング		U-LET23 26650 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(講読) Japanese History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 助教 池田 さなえ			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	金3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		明治中期の政治家書簡を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>尚友倶楽部品川弥二郎関係文書編纂委員会編『品川弥二郎関係文書』2、3巻（山川出版社、1994、1996年）に収録されている、明治期の政治家・品川弥二郎のもとに届いた書簡類を精読する。発信者は明治立憲制確立後の政府を担った政治家・官僚や、財界・地方産業界で重要な役割を担った人物、宗教者、文化人など幅広い。それらの書簡の精読を通じて、近代日本史史料の基礎的な読解力を養うこと、および明治中期の政治・社会の動向について学ぶことを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>近代史料を正しく読解する能力を身につけるとともに、新聞・雑誌・マイクロフィルム版の史料など、多様な関連史料を探索し、それらを通して近代日本の歴史を立体的に捉える研究の基本姿勢を習得できる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 日本近代史において使用される史料および『品川弥二郎関係文書』の概要、その使用方法を説明する。また、近代史において使用すべき辞書・基本的な概説書・注釈書などを紹介し、実際に見本を見せつつ授業の進め方と準備・発表の方法を周知する。また、出席者の担当部分を決定する。</p> <p>第2回～第29回 『品川弥二郎関係文書』2、3巻の精読 「授業の概要と内容」で示した方式によって、『品川弥二郎関係文書』2巻を精読し、内容について討論する。記事の内容と担当者の習熟度・参加人数によって進度は大きく異なってくるため、毎回の予定を示すことはできないが、必ず一人二回は報告できるよう読み進めていく。進度によっては明治期の別種の史料群を加えていくこともある。</p> <p>第30回 まとめ 精読の成果をまとめ、残された課題や疑問点について全員で議論する。切りのよいところまで読了できなかった場合、この回を補充に充てることもある。</p> <p>フィードバックは、講読という形態の特徴から、基本的に毎回の授業の討論・指導の中で行われるものであるが、形式的なフィードバック日を定め、質問を受け付ける。詳細は授業の中で指示するので、毎回欠席のないように。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 日本史学(講読)(2)へ続く -----											

日本史学(講読)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点評価（授業中の応答が30%、発表が70%）。とくに重要視される発表は、単位取得の絶対条件であり、したがって担当箇所を決める初回の出席は必須となる。

[教科書]

授業中に指示する
尚友倶楽部品川弥二郎関係文書編纂委員会編『品川弥二郎関係文書』2、3巻（山川出版社、1994、1996年）所収の書簡翻刻文をコピーして配布する。その他必要に応じて追加していく。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

発表予定者以外にも、授業中に指示して回答を求めらるので、毎回該当箇所を精読してくる。辞書・人名辞典・年表などを傍らにおき、語句・文意・背景などを各自がきちんと事前に調べつつ史料に向き合うこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。